## 令和４年度　第２回　調布市景観まちづくり市民検討会を開催しました。

１月 13 日に開催した第２回市民検討会では，検討会メンバーをはじめ，調布市景観審議会委員，傍聴者，他自治体関係者が参加しました。

検討会では，駅周辺の景観まちづくりについて，調布市景観アドバイザーである石川氏に慶應義塾大学大学院石川研究室による調査結果の発表とあわせて駅周辺の景観まちづくりの考え方について教えていただきました。

## 駅周辺における「駅近」と「駅まわり」の関係性とは！

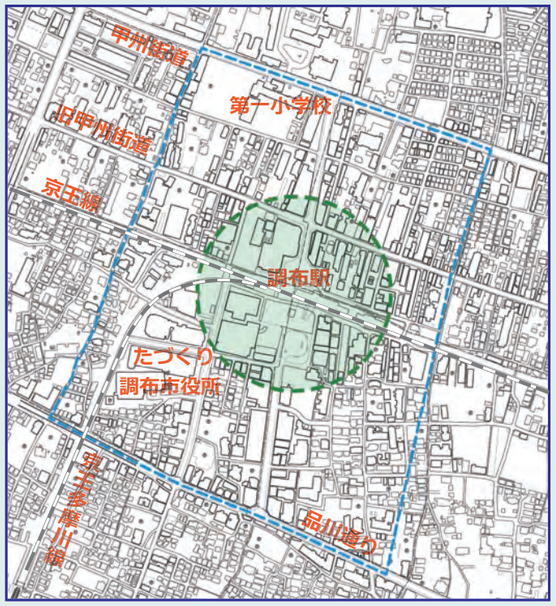
一般的に駅周辺といった場合，駅舎や駅前広場と隣接する場所を思い浮かべることが多いと思います。しかし，景観まちづくりで考える際は，駅舎や駅前広場とあわせて，そばの商店街や１本入った道など，駅前以外のエリアを含めて広く捉えることがあります。また，駅の規模に応じてその範囲が変わるとともに，駅の周辺の雰囲気を残しつつ街並みの装いが変化していくことがあります。

調布市の中心拠点である調布駅は，通勤や通学，遊興，観光など居住者以外の方も数多く利用する駅です。その中でも「駅近（駅に近接している場所）」は来訪者をはじめ多くの方が利用します。

一方で，「駅まわり（駅から少し離れている場所）」は居住者など，生活を主の目的とした人が利用する地域と考えられます。

「駅近」と「駅まわり」の関係を意識し，利用目的やその境界線について考えながら歩いてみるとおもしろい発見があるかもしれません。その中で，みなさんなりの調布駅周辺の範囲を考えてみてください。

**【調布駅周辺の「駅近」と「駅まわり」の関係性のイメージ】**




**「駅近」＝（駅に近接している場所）**
→概ね駅及び駅前広場から見える範囲

**「駅まわり」＝（駅から少し離れている場所）**
→「駅近」を除く範囲


調布市では，景観まちづくりについて，景観だよりでお知らせしていきます。

発行：調布市都市整備部　都市計画課　開発景観係

Tel：042-481-7442　Fax：042-481-6800　Email：tikubetu@city.chofu.lg.jp




# ちょうふ景観だより


令和5年3月 17 日発行

第 59 号


**【学生が見た調布市の景観】**

## 『中心拠点のまちなみ』とは

「活かしていくべき風景」

「新たに必要な（創出したい）風景」

### 中心拠点のまちなみについて考えよう

調布市の中心拠点である調布駅周辺で「活かしていくべき風景」と「新たに必要な（創出したい）風景」について，慶應義塾大学大学院石川研究室に調査をしていただきました。

本号では、調査内容の一部をご紹介しています。

# 令和4年度　調布市景観まちづくり市民検討会 番外編

## 検討テーマ「活かしていくべき風景」・「新たに必要な風景」を発見しよう！

本号では，中心拠点のまちなみの景観において今後に**「活かしていくべき風景」**と**「新たに必要な（創出したい）風景」**について調布市景観アドバイザーの石川氏，慶應義塾大学大学院生によるフィールドワークの結果について紹介します。

※フィールドワークの結果は２頁～７頁に掲載しています。

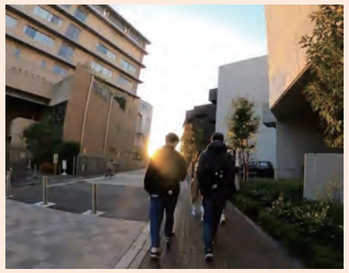
石川　初

慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科教授
調布市景観審議会委員
調布市景観アドバイザー

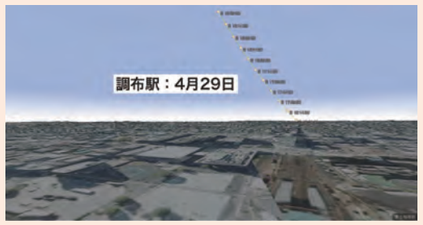

### 活かしていくべき風景　駅の西側の多摩丘陵の眺め

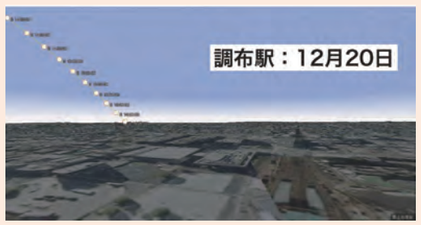
夕陽

- 調布駅の西側にあるビックカメラの裏側のあたりに行くと，ビルの数が減り多摩丘陵の良い眺めが見える。
- そこから見える夕日も美しく，この綺麗な風景を残したいと感じる。
- この風景は西側でしか見られない特別な眺めであるため，これを遮る建物が建設されないと良いと思う。



#### 日没のシミュレーションイメージ






各図は，夕陽を鑑賞する際に，調布駅（布田駅を含む）の西方向に見える時期別の日没のイメージ

※各図はシミュレーション結果による目安になります。



### 活かしていくべき風景　街のテーマの豊かさ

らしさ

中心と周辺の概念がなく，歩いていて街のテーマの一貫性をあまり感じなかった。歩いていると店舗がたくさんある調布駅周辺，住宅街と畑やビニールハウスが共存するぽっかり空間などが見られた。一方で，布多天神社とその周辺に近づくと，急にゲゲゲの鬼太郎が街の公認キャラクターかのように出てきたり，風情ある喫茶店があったりと、その一帯は統一感があるように感じた。

調布駅に「映画のまち調布駅」という看板が掲げられていたのを見つけた。後から調べると現在の調布市にはたくさんの映画・映像関連企業が集まっていることがわかった。

昔の調布市長は「時代劇・現代劇どちらの撮影にもふさわしい自然環境やフィルムの現像に欠かせない良質な地下水があった。」と述べており，そのように考えると今まで私たちが捉えていた水，自然，鬼太郎などの調布の特徴は「映画」という一つの項目に集約することが出来ると言える。

だが，私は歩くだけでは調布市が「映画のまち」であるとは感じなかった。むしろ調布市はそれぞれの地域がそれぞれの解像度を持っており，また住民は、一つのアイデンティティーに縛られることなくそれらを必要に応じて使い分けているように感じた。

### その他の気づき

#### 調布駅の北側と南側での看板のアプローチの違い

北側

南側

地図で見ると分かるように調布駅の北側は，建物が縦に長いため縦に連なる看板が目立つ。

一方で南側は横に長い建物が並ぶため低層階の横に長い看板が目立つ。

北側から調布駅に向かうのと南側からでは印象が大きく異なる。

## 活かしていくべき風景　駅と神社を繋ぐ天神通り商店街の風情

文化・商店街

商店街の入り口にゲゲゲの鬼太郎が乗ったポール看板が設置されていることで，甲州街道を挟んだ向かい側にある布多天神社の荘厳な雰囲気が一変し，賑わいの予感が漂う。

商店街に入るとすぐに老舗店が現れ昔ながらの風情がある。通りを進むにつれチェーン店やカラオケ店など現代的な店が増えるが，建物の高さは低く色も落ち着いているため騒々しさはなく入り口付近の風情は保たれている。心なしか人々の歩く速さも駅周辺に比べてスローだと感じた。

風情を保ちながら神社から駅に近づくにつれて現代的な店が多くなるいう相反する２つの地点を自然に結ぶ重要な役割を果たしているように感じる。また，聞こえてくる会話から地元の人や布多天神社に訪れた観光客など，様々なバックグラウンドを持つ人で賑わっていた。客寄せの声かけもなく通り全体にゆったりとした雰囲気が漂う天神通り商店街には宿場町のような落ち着いた賑わいがある。

近代的で賑やかな駅と荘厳な布多天神社を繋ぐ通りとして，賑わいと昔ながらの雰囲気（老舗、統一した建物の高さや色）が両立したこの通りの風情は残したい風景である。

また，旧東海道品川宿の北品川商店街と似た雰囲気を感じたこの商店街と比較し，天神通り商店街は街灯の形と色が近代的だと感じる。この街灯が変わると風情が増す気がした。

## 天神通りのキャラクターの確立　新たに必要な風景

文化・商店街

布多天神社までの道は，石畳のような舗装で歩行者用ともとれる特別感と，神社ののぼりが並ぶことで参道であることを教えてくれる。しかし，この道の持つ分かりやすい参道らしさはこれくらいである。

また，天神通りの特徴でもある様々な用途の建物が建ち並ぶ現状が面白さと布多天神社の地域への溶け込み具合を示す一方で、もう少し神社と通りに関わりがあったらと感じる。

そこで，

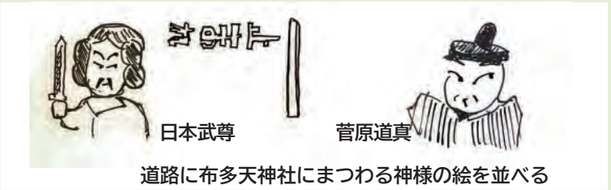
・先に進めば神社があること

・神社の歴史に歩行者が参加していること

の２点が伝わるようなデザインをして，天神通りの雰囲気を変化させたい。

そこで，右図及び下図のような看板や路面の装飾を提案する。

本殿を模したポスト




道路に布多天神社にまつわる神様の絵を並べる



## 活かしていくべき風景　-ground-

街道

街を歩く人々の目線の先には，足元から少し離れた地面がある。転ばないように，変なものを踏まないように目線を配るということは人間としての基本のひとつだ。

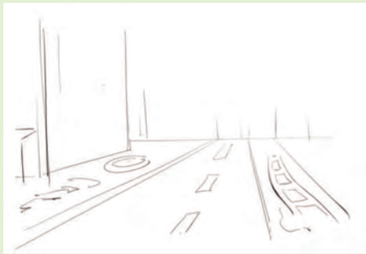
旧甲州街道の歩道は，カラフルなレンガ道で作られているが，旧甲州街道から枝分かれする道は灰色，黒ばかりである。

「旧甲州街道に出た」という感覚には，このカラフルなレンガ道に足を乗せたことで感じる特別感も入っているのではないか。もちろん人はそれをあまり意識していないが，認識はしている。

似たような話で，マンホールのデザインを凝るまちは多い。それは通る人々が何気なく見てしまうのを知っているからではないだろうか。地面で演出するものとしてとても優秀で面白い目印になっていると思った。

## -ground-　新たに必要な風景

街道



何かしらの方法で地面を活かし，調布を象徴するものを描いていくこともできるかもしれない。

ただ少し先の地面を見ながら歩いているだけで調布を認識できるようになり，わざわざ調べなくても簡単に調布について知ることができる。

## 活かしていくべき風景　甲州街道の並木

並木

・旧甲州街道や品川通りなど，調布駅周辺の道路と比較して格の違いを感じた。

・旧甲州街道はたくさんの敷地の細長い商店が立ち並び街道然としていて，歴史を示しているように感じる。一方，甲州街道は交通量が多い上にケヤキの並木が調布駅周辺に立ち並んでいる。

・国道２０号線付近の並木の区間は府中が代表的であるように，大きな街・かつての宿場などに関連があると感じた。通行者からみると，並木が見え始めて街を実感するのかもしれない。

## 活かしていくべき風景　上から見えるもの

上から

　フィールドワーク中に滑り台に登った。すぐに滑り台を滑ろうとしたが，ふと目に入った風景に留められた。綺麗な花畑があったわけでも，感動的な風景があったわけでもない。ただ普段と違う目線で見慣れたはずの風景を見たから驚いたのだと思う。
　上から見下ろすことが当初の目的では無かったので少し得した気分だった。「見下ろそうとしている風景」と，「ふと見下ろした風景」はまた違ったものように見えるのかもしれないと気付いた。そのため，滑り台や丘のようなふと見下ろせる場所を残したいと思った。

## 上から見えるもの　新たに必要な風景

上から

・人々が気軽に訪れたり関与できるような野外の丘や設備を増やし，意外な角度から調布を見れるように誘導すると，初めてくる人だけでなく，長年住んでいる住民も楽しめると感じた。

## 必要性の先へ　新たに必要な風景

先へ

　調布駅や駅の南側には生活必需品を揃えるための店やチェーンの飲食店が多く，人々はそこに「必要を満たすため」に行っているというような感じがした。
　そのため，調布をもっと魅力溢れる街にするためには，必要性のその先に行くことが望ましいと考える。

例えば，

・ぽっかり空いてしまった道路をそのままにするのではなく，そこでマーケットを開いたり，駅前広場に人々が過ごせる空間を増やしたりする。
・調布駅北側のＰＡＲＣＯ内のカフェについて，交差点側のカーテンを開けて見晴らしの良いカフェとしてＰＲする。

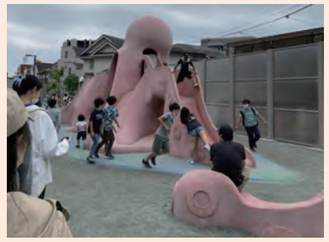
など，街にエンターテインメント性を加えていけたら良いのではないかと感じた。



## 活かしていくべき風景　てつみちやタコ公園で遊ぶ子供たちの姿

遊び

・てつみちやタコ公園で遊ぶ子供達は町の活気を生み出している。
・子供たちが楽しそうに遊ぶ姿は街の雰囲気を明るくしている。
・この風景には商業施設には演出できない賑やかさがあるため残したいと感じる。
・てつみちやタコ公園は柵がないため，遊び場が大人にも開かれているようで遊び心が芽生える。



## 活かしていくべき風景　調布駅と品川通りを繋ぐ商店街

自転車

　これまでのフィールドワークでは布多天神社から調布駅を歩いていたため，調布といえば乗用車やバスの印象が強かった。しかし駅から品川通りへ歩いてみると自転車の多さに驚いた。歩道脇に駐輪場があることや，自転車を引く・ 漕ぐ人が多いことから，この通りだけ自転車が目立っていた。他の通りでも自転車や駐輪場はあったが、そこではあくまでも建物や人が景観の主体となっている。どうしてこの通りだけ自転車が目立っているのかを少し考えてみた。

○歩道の幅に対する自転車の密度が高いから？
・駅前の広場にも自転車の存在は感じるが，歩道が広いおかげで自転車が気にならない。
　しかしこの通りは歩道の幅が推定 3.5m ほどであり，歩行者は常に自転車の存在を認識させられる。大人数で歩いていると「後ろから自転車来ます」といった会話が生まれるのも，この通りの自転車の多さに対する道幅の狭さが現れていると思う。

○同じくらいの高さの建物がひっきりなしに建っているから？
・通常は一軒家の高低差などによって目線レベルの空間にメリハリが生まれている。しかしこの通りはその調布ならではの特徴が見られず，建物がつくる風景が単調だった。そのため，より自転車の存在が強調されていたように感じる。
　また，沿道には「生活に必要な商業施設」が多く立ち並んでいることから，利用者は住民が多いと考えられる。そのため，この通りは「自転車が景観要素として強く目立っている」だけではなく、調布に住む人（中の人）と調布駅（外の世界）をつなぐ象徴的な通りであるように感じた。